萬葉集古義品物解

藤原雅澄撰

一

特
7
3
523

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号 特7-523

ガラス使用

特7-523

伊藤大八郎記

土佐藤原雅澄撰

萬葉集古義附録品物解

全

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

万葉物解引用書

和名本草

古語拾遺

本居氏

神中抄

本草啓蒙

和名抄

古事記傳

本朝食鑑

字鏡

康頼本草

倭訓栞神

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

代匠記
大和本草
藤井高尚
東雅
千蔭冠辭
岡部氏
東齋隨筆
古事談
古今著聞集
童蒙抄
長明無明抄
春湊浪話

多識編
庭訓往來
日本書紀
日本紀私記
谷川氏
三代實錄
冠辭考
仙覺抄
私抄
古今集遠鏡
私淑言
玉勝間
神遺考

以上草稿ニ引用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号 特7-523
ガラス使用

延喜式
塵添埃嚢抄
下学集
薗生抄
勝塚抄
和訓栞
大和物語
名物語

名物解
万葉集巻二

萬葉集古義附録　品物解之一

上　伴信友　藤原敬方　校

草類上

あさ　麻　苧　麻笥　麻苧

あさ（麻）（苧麻）（苧麻笥）

麻ハ古ヘノ布ニシテ今ノ木綿ノ如シ（アサニテヌノヲオル）ヨリシテ麻布ヲ織ルヲ（アサヲオル）ト云ヒ麻布ヲ衣ルヲ（アサヲキル）ト云ヒ布ヲ染ルヲ（アサヲソム）ト云ヒ麻ヲ績ムヲ（アサヲウム）ト云ヒ麻ヲ引ヲ（アサヲヒク）ト云ヒ麻ヲ刈ヲ（アサヲカル）ト云ヒ麻ヲ蒸ヲ（アサヲムス）ト云ヒ麻ヲ煮ヲ（アサヲニル）ト云ヒ麻ヲ晒ヲ（アサヲサラス

うえたち（九久多云）春之苗ヲ三
三字重ル歟
いゑね
そ（衍）春生ル
いね（稻）（伊祢）春ノ苗ヲ
ロヤ九、五十ノ七ヤ二十ノ七ヤ
苗代（連稻）（早稻田ノ事）
九ヤ二ノ七ヤ、五十ノ七ヤ九（苗代郡ヤ
早稻ヲ）
任（稻）春ノ八ヤ九ノ苗ヲ
秋乃ヤ（豊葦原ノ瑞穗ノ事）

稻穗ヲ云ヤ
なへ（苗）春ノ苗ヲ
苗代ヲ五七（苗ヲ生ス田ノ畔
ヲ云）代ハ苗ヲ云ヤ苗ごり大根ごりナド云
苗ハ草木ノ
自利ノ事）ノヤ九ノ苗ヲ
ト生事ヲ云ヤ上ノ秋
廿ノ春任（春任代ヲ
ヤ）ヲ又上ノワサノ例
ゆゑよ（陽稻）春ヤ
田ヲヤリ海ヲ井トアヲヤ立ヲ云ハ
井ノ通ヒ用井デヲ
ヲ云ミツ苦ヲヤリ井ヲ

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

いそのつら（便注為都礼）春子人、ナこ 春祥
う部
うさくさ（海州）春ニナ七
宇陀 多機納 琴堂氣
ミ二種ノ別アリ
うけふ（宇治都良）春十二ノ八、木ニ 和名抄 和名抄
宇陀 乗馬和草 梁州の訳 注書
うそぶき（宇治疑）（竜芽子）春二ノ廿の十ノ七
和名抄 和名抄 内経ニ オハヤニ五ノ（こん
その ヨメガナセを 里言民 蒿言 和名抄
和名抄 秋吹鳥、竜ノ 和名抄 ナリ

おそぎ（宇治疑）（竜芽子）春二ノ廿の十ノ七
土佐ニテ ヨメガナセを 里言民 蒿言 和名抄
和名抄 秋吹鳥、竜ノ 和名抄 ナリ
香氣あり 仮名
うまゝ又 うまゝ（轡頭）（宇治都良）春二ノ九の十
ナニ 和名抄 和名抄 琴堂氣
この外イバラもヒ
うも（宇毛）春二ノ七 多ノ名ハイヘドイモハ家ほ
草ナリ）ナ信里草ナリ（宇治都良）暑熱を山ウイモも
いろ〻 ナリ（宇利）春二ノ八 宇陀 一名のウリとハ
その ニハ ウリ ニ 名ハ ナリ ニ の

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

かくる（春萱）（幸萱）（鶏冠木）（荊萱）
春こそハ○七五○十七五の十七
文字餘龍胆花し（多陵岡）
鈴ケイトケ（ヒ）あるら（ン）カラ井の花ヲ
ヲくく（ン）
契沖ハ紅花ヲ
なりと（ン）島ヨリ（ン）苔ヲ（ン）
ハれ（ン）色ヲ（ン）
も（ン）穐萱ヲ（ン）
ヲ紙ヲ（ン）
ヲのヲみやこ（ン）又ヨ
萱ヲ（ン）
き（ン）

きゝみ又きゝび（すゝき）（芒）萱ヲ（ン）
きゝのゝ（芒ノ別名）春花ノ二五二次ノ一次、秋ノ
初ノ（ン）ヲ（ン）秋ハモチアハセ
事ヲ秦ノ始皇ヲ（ン）
キビニ非ヲ（ン）
ヤヲ（ン）
ヲ（ン）
ヲくく

くみゝ（文君英良）春ヲ（ン）
萱ヲ（ン）
家ニ（ン）
（萬）（四萬）（六度）（真萬）ヲ（ン）

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

さをうつ又さをうつ（狭布衾）（布衾）
（楸葛）（布々葛）まこも 和名抄 和名布
さはあふぎ（佐波奈）まこも 和名抄
陰萼
一部
一だくさ（子太草）まこもの子
一ぜ（茭）（之部）まこもの
ねずば（根芽）（芽ハイツの仮名）
イツハをあきをつゝみ）
此のナルに 葉を書く 信濃
ばとあり 信州にて葉のみ

まこもさ（和字）まこもの子 毛詩 伝笺 サキノコリ
クサ 蘭の一種なり 和名抄 菊 仙覚 万葉
にあり
すゞ
すゞ（菅）（仮字）まこもの子
を云 倉ハに 五九の八五 のナル 在上なる
まこもを云 倉ハに 元 和名抄 陰萼
菅ハやゝとをそろ 此もの
ひまご（ひまごを云）まこもの子を 同名 ひまご
ヤタノヒトモトゞハ云 土佐人（土佐方言）
菅ハ多くのそをそろ

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

ちる（芳草）春生ずること
あをやぎ（緑楊）春こりこそ
十八千の生ずること草木は
なかりけるそ ちる紅葉
春野辛春色のハヘヤハヒ
ちるもの（芳花）春なる
ハヒナと縁り詩書 春
めぐりきて後年春もの
つばなてきて 後年春
つ部
つるくさ（月草）（野辺草）
ここの十八五の十二に草

つね（向）者ニテ。ナレ。ナレ
書記修飾ヲ者ニツヌサハフ
仁徳天皇者ニツヌハフ
飯豊王者ニツヌハフ
御陵ハ往ハ昔ノ形ヲ
石ヲ多ク葺ニテ
のごとくあるニツナハツヌモ通
ニテ縄ノ如ク
手作ル田ヲ
つちくり（土斛）者ニテ
ニー 和名抄 安倍
ニテ記傳連ノ
ケルカ。ケルタチハツサハマキ。サニナシニアハレ。

延喜式 黒葛（ツヅラ）ヲ
アヨツヅラヲ
者ヲ
ニ鞍草ノ
記ニテ野傳 飛鳥
ニテ
ノ
ニ
ニテ
ニ
ニ
ニ

ここ、つく（冬草類為）（冬草類都氏）
春て土のみつこと（旧例サミダレノフルコト）
有の花仏ちんそ下男を庵の
なる 冬草類 サキツラト例て二サキの
有、ここをサキツラト例て二サキの
ま春冬草類 冬草類
云こと春よりくもりそて
和名抄 草蘇ハ千秋草ナリ
倍て俗ミヤマセリ
大隈式 草類 草ノイモ
ナリ 千俣鬼トコロ 木トコロなど
ヨリテ有ナリ（ヤマノイモ）

（又アトトコロ）
草蘇 ハ草春て有つくバ云ナリ
葛ー（クズ）
仙薬ー（キカラスウリ）ハ此ー（トコロ）
品物解巻之一終

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

万葉集古義附録 品物解巻之二

草類下

なづき部

なづき（水葱）雑歌十六ノ十三ノ三十五 和名抄 正云 契仲云

ニなぎ 巻三ノ十七ノ十三ノ三十五 和名抄を参看

とあるを例として子ハよりて、初生ノ葉、又ハ

葉ノ如きなどを摘て羹とすべし

なづこ（石竹）明僊云 巻二ノ八ノ九ノ十ノ三十一

十七ノ巻ノ十ノ十九 契仲云 圓僊云 和名抄

異名に後改 陸奥記

又名ハ圭思浮ともいふ ナデシコ ロナデハ抜

織ハこれ絡フナリ云々

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号 特7-523

ガラス使用

なのりそ　巻二ノ二四〇四十六ウ　十八ノ四〇七二七ウ　十八ノ四〇七二八
和名抄　屋漏痕裏物　下学集　大和本州　昆布
なたのり　巻十二ノ三〇五九　大和甲子ノ条
麹塵これなり　本綱食法　今按、民部式　宮良布
云と大膳式に見ゆ
に部
にこぐさ　巻十ノ二九〇七ノ十九ウ　萱草花
男児設　啓蒙記　契仲伐西征記巻末
ぬ部
ぬなわ（蓴）　巻七ノ一三七ノ十ウ　水の中生海藻
之なり　和名抄　古事記裏書欠　啓蒙記

ぬばたま　巻三ノ二八〇ノ十八ウ　二四〇ノ二ウ　二四〇ノ四ウ
古事記巻上ノ条下　和名抄　啓蒙
ぬるで　巻二ノ十三ウ　サスリノキ　和名抄
膠木　巻十ノ二〇九ノ十ウ　膠ト又ハ別物なり　和名抄　啓蒙
まてしば　巻十ノ二〇九ノ十ウ　和名抄　王孫　万葉考
萩　和名抄又ハリノキ　和名抄　王孫
和名抄又ハリノキ　和名抄　王孫　啓蒙
王孫　按ニ古今集又ハリと別物なり　本の標と
非なり　同書ニ又ハリと別物なり　又ハリの条ニ
後世の土針ニ用ゆなど云へり
ね部

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

わつとさ　巻十三　真間の娘子　陸奥国
蘆垣の間ゆ白妙の袖さし交へて
まつこもかもとしとふ　萬葉集
はぎ　巻二ノ十六　ひとしれぬ　和名抄　青葉（サキクサ）　前栽（センサイ）
さきくさき　巻八ノ三十四　（早蕨）　巻十三
ゆはこの初めて言ふ　和名抄
ことちす　（蓮）　巻十三ノ九

和名抄　萬葉　古事記　播磨風土記　大和本草
（後略）　巻四十九　萬葉集
今俗（後略）　古事記　萬葉集
玉緒　古事記　萬葉集
萬葉集　萬葉集
萬葉集　萬葉集
萬葉集　萬葉集
萬葉集　萬葉集
萬葉集　萬葉集

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

なるこあるいれもの
ほのおのようなもの別名白久利
してのものもろもろ物
物ごとの仕多くあり
かりぐし一種の茎ありて
梨沖仲色紀と物ありて
名事いかあるあて花の
物かくあり

ひえ（一種）巻十一ノ十二ノ二十
ひのけ（一日朝）巻十九ノ四五

天宇受賣命ニ　古語拾遺　表
商売或倍新嘗物物

土形ていた物のたとえ　大和物
計代紀景行條の歌ワ、和名抄
ワカリ苔ワを一物ともあり紀伊
かづらうげ　巻六ノ三十一
山つらうげ　巻七ノ三五
の意ゝそこの又いのりより
ありなし
やまうげ　巻七ノ二四　玉ハ山ぐ
山のげハ卩撃華ホ垂たる
ヤまうげ　巻十七七　物名ハ
後ろれ前の意ハ人名ヒ
松浦ゟ後半ワ山葛ヒ卩ヒガツラの

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

ガラス使用

まめ　巻十六ノ三七　和名抄ノ云ヘル古事記上巻大ケツヒメノ神ノ於陰生大豆　次ニ道饗ノ祭ノ段ニ見エタル荒塩ノ事ヲ云ヘルナドハ今後ニマワシテ略ス

みる　巻五ノ三十　和名抄ニ云ヘル水母（クラゲ）ノ事ヲ云ヘルナリ　巻三ノ九ノ十六ノ三二ノ全文共海底ノ状ヲ述ベテ海ヲ見ルコトヲ云ヘルヲ見ヨ　宮前ノ書ニ（海ヲ書ニ）義ヲ誤リ海松ノ一種ト云ヘルハ

むぎ（麦）　巻二ノ二八ノ十四ノ三行　和名抄　古事記上巻ニ大麦小麦ノ名ヲ挙ゲ又一種ノ薄麦ヲ挙ゲタリ

むろ　巻九ノ五九（ヲ松　蓬生ニテハ　茅生（チブヨモギフ）　蓬生（ヨモギフ）ニ作ル）　巻十ノ二ノ（ヲ松　蓬生ニテハ　茅生　蓬生ニ作ル）　巻十ノ二ノ（ヲ松　蓬生ニテハ　茅生　蓬生ニ作ル）　和名抄

もみぢ　巻二ノ二ノ十ノ三行　和名抄　古事記上巻ニ紅葉ノ名ヲ挙ゲタリ　巻十ノ二ノ十ノ二ノ十ノ二ノ

め部

免（軍布）巻二十（奈米田氏軍宇ハ葦）
語せうそうさまあとし葦原氏言同一けれい言比
布ヲ通一かけるなん）和名ヲ
大猶云ふ死（ヲ物ノようなもの
薬雑物ノ薬 陽物ノ薬 ようなもの言ひ
メとうふ昌布ヲ上 醫家
美雷曲氏ノ「モ」も 相通ふ言
名「ヒも」「もも」ありしとうふ
云ふ書よりもろもろ
仁まめ 巻二ノ末 和名抄
ヒ物ニてもいふ 和名抄ノ
ま二乃「オゴ」もふ「オゴノリ」ふ
大和本「ニキノ」ノ訛り
ごろん 巻十六ノ十三丁 本草和名
ニキメとアラメとを並て別ノ一名
ワカメとニキメとハ一ツのものゝ
メ「ワカメ」アラメとヲ並て
別しかて或ノワカメハ「ニキメ」
なりふ和名抄ノ「ニキメ」ヲ俗ふ和
ごろとふ俗ニニキメと
お薬なと別てワカメヲ
も部
（雇） 巻十五ノ十八ノ十二 和名抄

一云 篇従 私注 私注或ハ「オキツモハ」ヘツモハ」（毛詩ハ
篇等ノ云モ詩ヲ論ズル事ノ集ニ一ノ事ニ
沖ノ海ニ限ラズ岸ノ海ノ総名ナリ大
中ノ篇ノ「漕ガ大」ハ「ば」ノ誤ナリ
ば」誤ナリ 沖ノ海ニテ漕ガバ
ノ如ク狗ニモ一ノ事ニ
ニテ云ヘリ 沖ノ海ニテ
集雅
たまも 巻二ノ十五ノ八ノ七ノ五「海底ニ生ズル
玉藻ノ如ク」（玉藻ノ事ニ
ニ萎ム云モ 掌神天皇紀玉萎ム
ヤ一云ト 警蹕 掃部寮
（上ニ引ク如ク沖ノ篇ノ

巻二ノ三ノ「玉ノ玉ノ」ノ七ノ二八ノ十ノ三五 夢ヲ 咒ヒ 沖
ノ篇ノ
みさご 巻二ノ八ノ八ノ七ノ七ノ七

ゆり（百合）巻七ノ云の十ノ十八ノ云ノ五月ノ句ノ条ニ

さゆり　巻ノ元ノ十八ノ云ノ会ノ向ノ九名ノ草ノ一ノ百合ノ事ノ条ニ五月ノ句ノ条ニ

ゑぐ　巻二十ノ九　和名抄　ヲニ食ノ項

ゑやまひ（山芋）巻七ノ十九ノ十ノ十ノ十

井河ニ布ヲ晒ス形ヲ傳ヘ見ヨ
ヲトメ部
ヲグ　巻十七〇三九　山ノ端ヲカケテ
神代ノ事ヲグ女菅ノ　エゴノ浦ノクヽコト同意
ニヽ　和名和草　俗ニ一ヽ女ウ
伊勢保道ノ北、ヨノ者ノ
ヨゴヲモノヽ　ヨゴヲモノヽ
ヨゴヲハヽ　ヨゴヲモノヽ
行ヲゴヨ　百ヲ百ヲ
名ヲヽヽ　ヽヽ
ヨゴヽヽ　ヽヽ
ヨゴヽヽ　ヽヽ
ヽヽヽヽ　ヽヽ

上総ニテ云ヽヽ
ヽヽヽヽ　ヽヽ
ヽヽヽヽ　ヽヽ
玉ヲ　ヨヨノヽヽ
ヽヽヽヽ　ヽヽ
ヤヽヽヽ　ヽヽ
大ヽヽヽ　ヽヽ
ヤヽヽヽ　ヽヽ
ヽヽヽヽ　ヽヽ
ヽヽヽヽ　ヽヽ
ヨヨヽ　和名和草　ヽヽ
ヽヽヽヽ　ヽヽ

（モノサシ六 松（モエノ）草サシ
初部
ミヤマヒサキ（萱草）
和名ワスレグサ 訓蒙 大和物語 伊勢物語
ワスレノサシ云ハ心方ヲ本トシ
毛詩傳ニ 文選 養生論 注
杜甫ガ集ニ 多用ル故ニ
集ニヨリテ 家ノ萱草ヲ
植ヲ見ルニ 倭名抄ニ 書タレド實ヲ
ノミヲ出ス物ヲ以テ
ノミヲ出ス物ヲ以テ 假名ヲ
植ヘテ 倭ノ
萱草ヲメグサ 萱王ヲオナゴ忘草ヲワスレグサ 萱堂ヲワスレグサノ

忘草ヲ植ヘテ
ワスレグサ 萱草ヲ植ヘテ 庭ノ中ニ 假名ヲ
ワスレグサヤ 萱草ヲ東ノ間ニ植ヘテ 母ノ
ヤドヲ 母ノ宮ヲ 母ノ家ヲ

一部
一部（細竹）（小竹）巻七三七。全元。十六ノ十七
和名抄 宇倍・辛加良氏 ニヌトモ云 十ヨ、カニ廉手
ホソキ竹ニ似テ云ニヤカ云シ竹ノコトヲ云ヘリ
あらーめそら 巻七ノ中ノアワゲハラノ条
一部
なよたけ又なゆたけ 巻三ノ廿四ノ三ノ条
ナヨ竹又女竹トモ云 和名抄 今俗苦宣反竹作
苦笑トアルハ半ヲヨヘリ 啓業

品物解巻之三

（ハコモリノ）
あしの刺竹 蓋隠有トアルモ
柔の別名ナルヘシ 巻一ノ条ノ
さゝ（小竹）巻三ノ九ノ九ノ十ノ
和名抄 啓業 （ヲ細サヤカナル竹）
ゆふさゝ 巻十ノ三ノ（イホサヽ）五百小竹ニテ多ク編ル
モノヲ云ヘリ 古今ニ云ル小竹ノ
葉ニアラヌヲ云ヘリ（陽ハ弱ノ字ナリ）
いそたけ 巻六ノ八ノ（イハヒサヽ）五十小竹ニテ
小竹ノ叢生スルヲ云歟 啓業
なよ竹ニ非ス

木製

あゐ

あゐ（馬酔木）巻二ノ二六、四ノ七〇四、十ノ一〇九九、二十ノ四三
今俗、アセボノ木ヲ云フ土俗ニテアセビ又
馬酔木ニヨシこれバト云ハ誤ナリ
馬酔木ニ取悪シ

あづさ（梓）巻七ノ一二八　和名抄
ヨシ又梓木ヲ字書ニこずゑノ
ノ条ニアキワケヲ云フ
あやまり梓ヲキワケヲ那ヨキヲ六ハ秋ヒ
少外ニ云ヒ古書ハ多ク梓ヲ
あづさゆみ（梓弓）巻一ノ八ノ二ノ十四ノ三

あをき　巻五ノ八一〇十ノ二三〇十七ノ四〇三五　和名抄
利乎加乃木　今俗ニアヲキト云ヒ木ナリ

あぢさゐ　巻七ノ一三五〇木名ニ　和名抄
紫陽花ヲ此間ニ渡ル
なれそめのうつろひやすき
みやへ山ゆきかへりまた
ふたゝびと宿の庭の花ぞ
さきにけるかも）千葉ニ
花ノ日ヲ改ム又花ノ
ヲ物ヲ
あぢさゐ　和名抄　和名草
あぢさゐ　和名抄

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

契沖がクスキと重ねもちゐ遠ざ
を除き、梅実ではなく梅干
も例と擬実をハリ芸
いり梅実乃梅をあハ隆
梅をもクヌギともろ〻ゐ
三枚実ハ老ざと記ス
云〻
〻部
〻久（梅）老三ノ字ノ口五ノ五ノ五ノ

ウツギの花ト　和名抄　和名ハ未詳　本草　宇陀
注書　奥山ニ生ル一名ハナウツギ　ウツキノ花ヲ
略キテ云ヘリ卯木ノ花ヲ卯ノ花トモ云ヘリ
元
（橘）　本草ニ九種　和名抄　宇陀　古今集　春ノ花
ケリ（時ノ間ニ散ル物ニ譬ヘタリ）　本草ニ橘ヲ記
シテ柚トモ云ヘリ　本草ニ橘ノ実ハ小ク皮ノ薄キヲ
橘ト称シ皮ノ厚キヲ柚ト称ス　和名抄ニハ二ノ木ヲ
ナラベ植テ云々ノ事ヲ記シ本草ニハ橘ノ実ハ大ク
皮ノ厚キヲ柚ト称ス（ナラベ植ルノ事ハ記セリ）　万葉
ニ橘ノ事ヲ詠ジタル歌ノ大抵ハ実ヲ賞シ或ハ花ヲ賞
シ或ハ昔ヲ思ヒ出ヅル料ニ詠ジテ柚ヲ詠ジタル歌ハ
一モナシ

如意

みみのまき　巻三ニ有ハ　和名抄　宇陀　一名ハ
ミミノワ　ミミノワノ事ハ巻六ノ末ニ委ク註ス

かぎつばき　巻七ノ末　本草ニ九種　和名抄　宇陀
ニ有ノ一名ハ　ツバキ　巻七ノ末ニ委ク註ス　柳ハ楊
契面　壮夫ノ腰ノ如ク有ルヲ以テ名ヅケシナリ
下垂者柔脆ニシテ垂ヲ結ベシ　ト本草ニ有リ　柳ノ
枝ヲ垂ヲ結ベシト云ヘルハ此ノ事ヲ云ヘルナリ
ヨリテ略キテ結ベシト云ヘリ　巻七ノ末ニ一首ノ
ミ有リ　ヤナギ

かえでば　巻七ノ末ニ有ハ　和名抄　宇陀　本草
ニ有ノ一名ハ　カエデ　巻七ノ末ニ委ク註ス

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

かつら（桂）　巻七ニ五　和名抄ニ桂ハ
字ノごとく周ク桂ノ後ニ桂ノ
カヘデハ那ヨリ和名抄ニ云
木陰稀ニ一ツ二ツ桂ノ如キ
葉ノ事（モテハヤセル）ヨリ桂ノ名ヲ得タリ
新撰字鏡ニ云又ハ洋ニ云
ヲテ詩ニ丹桂ト称ス
なるもなんさ洋ニ
ハ云ふくらいつるもの
そ）和名抄ニ桂ハ

一ツうなゐこと之ヲ左ニ記ス　云カツラ　高桂村ヨリ出ス　秀未
いそんこと詩ニ　桂林　桂ノ字
桂林ノ桂ノ字ハ桂ノ字ニ　和名抄ニ桂ハ
桂ノ字ハ桂ノ字ニ　一ツ上桂ハ
ハ云ふくらいつるもの　つきめのかつら　巻七ニ云ヒサカタノ月ノ中ノ
左ラシ　月人ヲトコ　旦月人壮ヨリ
月人ヲトコ　和名抄ニ羅云月中有桂

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

古の字相、物をいふ
長明仮字記云、窮而通之
者ある事ここの作もの長短
ありて一定ならざるを
云ふ也、モサこと（ごと）
草の葉に似てより古名
也、松の字相、三角形を
いふ
かくのごとく（松）老子云、十八、形骸
旅老五十仁動元年為
具案故 諺蒙云（長い
潜いに必ず当る
ナガシカしハ歩行

似て柔らかなる物をいふ
カラ菜 カラ葉（ハ）カラ松
カラ蓑（ミノキ） カラ蓑（ミノ）草（ハ）カラ松
かづのき 老子云（雲辞 勢（ガ）の木
かた仕 （松原） 老子云、形
ふるの松の枝を用ひる多松
ぶとそれとカニハサクラとて
ふ用ひなん 古一書歌のうち
ぶとこころの松生のぬ
ふるあるなの松ばかりをいふ
古記、カニハサクラハ五天香
ありて用ひて 和名抄松
一云ニハザクラともあるニ

きり部

きり（桐）巻五ノ十（引用略）

キリノ字ノ旁ノ切ノ字ニテ木ノ名ヲ
おそく切ればもとより早きをもおそ
く謂

くり　巻五ノ八　和名抄　説文ニ
曰栗ハ木ノ名ニテクリノカラノ
如シ栗林ヲ栗ノ字ニテ栗林ト
ミナス　巻九ノ三十ノ注ニ栗ハ山ノ一

三野あるこ之上
くは（素）老ゝ之五　初春
ゝゝ之ゝ後来ゝ
里ゝゝ「コクヒ」の後
とハ「ハ」と訓り
にひぐてま一歩くそこの降下あも
こ部
このそこのそ老之九の来之
初春
さ部
さゝゝ（桜）老こゝ之の五ゝ
のもの五のハ之の十千のさゝ花
ゝ之五の八ゝ之高多し　初春　貝原氏

幸所氏ゝ
やまゝゝ（山桜）老ハゝ
殊の桜をゝゝ山ゝ山
幸幸やゝサクラとゝゝ
いぶり　初春、ゝ
きを山サクラといなハ
ゝゝまゝゝと　山桜ゝ（老之
ゝ之ゝゝゝを之ゝ）
さくらゝ　老こゝも　初春
海部老ゝ之　古今記
貝原氏説（古キハ御
の之ゝもゝゝ之

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

一部
一なりもなぎ（垂柳）巻十九のはじめの
のはち 和名抄 玉篇
一ふかし 巻十九 杜甫 汎蒙
杜枕あるは 杜のまくらかと、巻十九紀さかつら、角い
玉篇にはザカキとよめり 和名抄 角力とりぬれば三字を消
柳すなどを指すなり 杜甫 書言故
しるし 巻十九 和名抄 玉篇
一ひ（椎） 巻二十に 七七のはじめ

一部
一すぎ（杉） 巻九 巻十に 和名抄 玉篇
さとこのはじめ 和名抄 玉篇 一千株 直木のこと
かもすぎ（神杉） 巻二十 一里許 たてまつれ）
ゆこすぎ（斧杉） 巻二 巻十九 又はを
芸香 梅のあて 高杉 又はを
ムスギと訓るは誤 ひのくまびの
すぎ（杉） 巻九 和名抄 玉篇

たちたる　橘　巻二十二の八千五百十二
五ノ三八〇七十五のれ九五橘を
三和銅元年　改鋳以後　古のシテバナ
ちあるそ　橘の　初句
皆悉多ちかう　字
訓のごとく　古昔を味ひ
加奈氏云昔の橘と今の蜜柑
橘也と一訣と昔の橘
陸と注すー味の橘
也ちかけたる等と
以意ー云々あるー物なれど今の橘の

蜜柑を云ひすてー菓の橘
を用ゐ今の橘物
蜜柑のごとくー　橘物
ん今時のものハ近年
なりそしてよき
又昔ありて菓物ハ今の
今近て多くハ十と言ふ
ありて　此橘
味の五ちかうと注して
も印あるよし又三十
橘抽三ノ八ほもてて

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

由布ハ指ス地ヲ名トス。
指ヲ剋テ作ル名ニ非ス。
古語拾遺ニ今天日鉾ヲ樺ヲ以テ
ヲ本ノ如シ又神武
ソノ余ノ木ノ生ヒ得ル
本縛ヨリ末ニ至ル
ヲ結ヒ
ツヽ
（持）老ノ杖ハ
ツヽ
（苞）老ノ五ノ十ノ四ノ

和名抄 和名草 唐本草 唐ニ
唐土ノ橋ハ
ヲ二年本草ニ
山堂日事云唐ノ
ノ名ニ非ス
ツヽ
（苞）老七ノ五ノ二ノ
物ヲ以テ
ツヽ
（苞）老ノ六ノ
今ノ
ツヽ
（苞）老ノ五ノ

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

和多比幸
にてつじ 老ニ六ノ廿五 和多比幸
「同てつじ」ニツ、ニ事 老ニ六ノ廿五
ニ六ノ廿ノつじそ 「男紅跡」
ーふつてつじ 老ニ六ノ九ノ十ノ十九
ニ六ノ廿ノつーく
いそつてつじ 老ニ六ノ廿ノ十九 「芸陽」
イハツニそ ニよりはニ老ニ六ノ廿ノ十九
の浜なと吟ふ海浜み 「芸陽」
ソ老ニ六ノ廿ノ十九
ニ六ノ廿ノ十九
なと
つて 芸陽 老ニ六ノ廿ノ十九 「芸陽て紫ノ梅」

十ノ十二の同九二ノ九ノ十九
つぐの朱 「梅ノ木」 老ニ六ノ十九 和多比幸
ニ六ノ廿ノ十九 「梅の木をもそトかと呼
おりそ」 男同「守羽多
つ、ま 老ニ六ノ十二 主浮 宇能
能多ふ、ゐあ心し
つき 「槻」 老ニ六ノ十九 「槻をいりと
ニ六ノ廿ノ十九 「槻」 宇能
老ノ詞、ツノユとなるハ 「槻をいりと
云ハ月夜をツノヨとゐと
略業
りえつき 老ニ六ノ九ノ十九 「槻」

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号 特7-523
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

材里を云ふて云ふ梶材を
つみ（梶）老ら云ふ○十六初句形ら梶、
水手等之ら山中ふふ山中ふふ
事を等事、例て大熱て
なし部
（梨）老下ら梶形
て糸まんとあをなし
そうして無事と云ふ
五一○老ともち九（成八事の儀なし）梨形
字経
（梶）老五ノ六三（梶
やし）初句形字経
さて梶の字、書紀

和名抄云梨経所と
訓あなれど経てもなし
なれ海ら梶も多き
ふふ見ふなし○の
あこせちまたとの多あ
梶をナラ、ふふ見ふ
日本紀歌事
ふなら老下ら
幸朝食鰹近時
なるべし
多経
なるの表老ナラ十八ノ二
名を梨ふなあて等を

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号 特7-523
ガラス使用

ねぶ（今俗ネ）巻十三ノ三二四ノ末ノ二
和名抄 宇度 千候かくぐと呼り
万葉集州 山野の中に多く生ず人家に栽甲
巻の納末に多く対生す秋月に花白色
夜に睡りて昼に開く二三月枝梢より出
て穂をなす花のごとし巻十ノ末ノ二
なり

はま部

はま（濱）巻二ノ五ノ三ノ末ノ七ノ三ノ四ノ
十ノ二十ノ十ノ二ノ八ノ十三ノ十八ノ二十ノ三十六ノ三
万葉集 埴生義抄 俗云久乃
濱りて云々 巻十ノ二十ノ末ノ二
なり土俗云 万葉集の中に浜辺
を五人八濱の辺の辺の辺
一以云々 巻末四氏云

はぎ 巻末五十 和名抄（
樺を加二八ノ末ノ二ノ四ノ二ノ十師
云々）古今記 書紀天児屋
氏云命太祝詞云 万葉
李時珍曰或云蒿檀木也

あとよりて 前本に萬葉集、以同あり、心得るがよし。之の仙一、
甚記ゆく歟り云々 又梅柳ゆく云々 別記あり。十四ケ所
始れる 前書、春苑、なども別記あり。云々 又梅柳ゆく云々 別
むかふ 是梅の事 二月ゆく云々 別記あり。十四ケ所
八重、一云云々 萬葉集、梅と定
あれば 甚早く 咲ものと云けるも 信しがたし

はまひさき 巻五ノ三八 (萬葉集、梅の柱、浜辺に生ずく
もあるべし) 中山海水云々 イツサキと訓
造るを 梅と解る物なり 剥皮 剥り
ひ部
ひ (梅) 巻二ノ八〇七五 梅花
お
まさき (まけき) 巻二ノ九〇七 梅の柱
仝巻ノ三ノ三ノ二ノ五 ノ六ノ五 ノ七
ホノ二五 (二十柱、事例と
梅の枝の長きを

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

三キ
枝と眼もそろも　たまも
おだ　　いぐ枝
芒を真幹とてもの例
ひさき　老ニナニ〇三ノニもこ
貝原氏　諸葉　〇老ニ
今サノイタリコ　土ヤオキ
久木ハ得字もじし　枝
キし〇ヒサキハ　ちく久ーサ
名ハ老、サキカハノキヒノ小葉メリシ
云し　枝ハ磨来をこバ如
こいかしのおまれ　のおりをて
てもも

ほかがき　老ニ
ケ伝　土オ来ヤリ　諸葉
名ニ花ちみのこれお
南ひろ引ぎよあ　（春非のおりをこし）
ほ上　老ニ七　和名ヒ
ヤどりぎとちものそ
まち部

まち　老ニ三六品ちの二ノ三五ちオハ
八元一、五七〇九ノ二一〇十七六〇
ケ六書ノ木ニ　芒ニ　和名
こまち　花老ニナ〇三ノ二一〇ナノ八

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

まゆみ（白檀）
巻七の一二九〇 三ノ九
ときを石木にて角をつくりて
木をのぞきたるものをいふ
也 部

ちりのまき 一天木香村（天木香樹）
和名抄 宇波比（天木香樹）
樹のかたちを刻りて（樹形を刻り）
名とし 是漆を（樹形を）
花を塗て生毫穴神を祭
山づくりせて 此を遊ぶ
故根蔓等を（根蔓等）

柏きる斧 仮字又杉を伐り又柏を伐りあ
わせてつくる 重ねつくりの物と云 ふくろ
人ふの柏せんを 此ふくろ彼ふくろ
土仮とも 玉緒 玉緒云 柏字あり
さわしたのムロとも 多をミムロきて ミムロの物
辱りせりより 多の
り部

り、 一抓 巻七云 おくれ
けり （一抓） 巻七云 五ノ十ノ土
部葉

すもものえ　老木のえ（一モムロハ）榠樝（ボケ）楠（ニレ）と二枝を
引連れてくる　杉槇杉
くい又い楠ニモムニレとて一枝あるの異名ハ杉ハ
くうの枝へ　秋ちあり
又神（杉ヤニレを云ぞとて
か詮無き人、榠樝ハ
の云ハ古へこのモムニレを刺て目ハ花
一白くつゝ秋ちて色ハ
従ハ楡仁榠樝とハ
あとうろう
やなぎ　（杉）（楊）　老木のえ

同八のえ　ハのえ　九夢え　秋ちハ
秋名多（ヤナギハあるなし矢張木の意ニよ
改ありなどハハ秋くる面てう）
ちるなき　老五ノ九　老多の枝を
別云ハ
あをやなぎ（あをやき）老五ノ十九、十六、十
ハノ十七のえハ二のえ　老五ノ十五え　老等の枝
をそえて別名ハ
いつもなき　老木のえ一ハ五十枝枝て
新採雑て枝を云
やまつゝき　老二ノ五ノ八ノ十八ノ
ハノ九のホ十二　字鏡　貝原氏のえ人の夢え

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

（一八一を以てし　和名抄草類　万葉集
山吹花多くあつまり咲く形状の稍〻（やや）似て（似て欠字）
ヤマブキと名づく遠からざる意なり
（ヤマブキの条下）
ヤマブキ（山高芭）　巻七ノ三五の十七　仮名書
云黒人（いはひと）のいはく本と（欠字）
ヤマブキ（山橘）　巻九ノ三一の十七　仮名書
九ノ三一の歌ノ五三　具注暦　古今集　後撰集
万葉集　巻七ノ三五の十七　仮名書

やまたづ　巻七ノ三五　和名抄　字鏡
多識物　啓蒙
（ニハトコ本とてある所を本字を用ひて呼べし）
ニハトコとヤツコとヤツデとヤツヲの得て
タツノキとヤツコキと一物なるを女
の称名也（欠字）也矣、ヤツデの遠からざる
ヤツヲとヤツヲモチ、楊氏漢語抄
ツハキとヤツヲモチ、ヤツヲ、ヤツデ
ヤツコギ、楊梅木をヤツデノキと女
矣（欠字）ヤツデの称
呼ぶ事にヤツデキを止てヤツデと
ヤツヲ、山タツノヲカ（ヨユカシ云ニ墨子の
こヤツコギ〳〵とくりかへして一さて有るを

萬葉集古義附録 品物解巻之三終

首の毛髪をもて落髪 指髪 おかみの事也

巻二十九ノ五丁 坂本人麻呂歌 多く残て歳

品物解 巻之四

鳥類

あ部

あきさ 巻七九 ※ 名義抄

あぢ 巻七ノ十三（アヂムラハ アヂ群ベヰル 名義抄 字鏡 倭名抄 和名抄

七ノ九ウ 十ノ三八ウ 十ノ七ウ 十ノ三ウ

いうとう 巻ノ十三ノ三ウ

い部

う（鵜） 巻一ノ九ウ 十ノ三ウ 十一ノ三ウ

小曰鵜鶘（俗云鵜ノ） 日本紀私記云ニ一日本紀私記云ニ

鳥ノ字ヲ大小ニ訓テ分ケ 本朝民 本朝民

此民ノ名ノ如ク大ナルヲ 本朝民

ハ鵜ノ字ヲ大小ニ訓テ分ケ

ルハ非ナリ

ウカヒ 名義抄

ウカヒガヤモ。イユキニモラ

ナハヒ。タ、ナメテイナサノヤマノコノマヨモ。イユキニモラ

ピタ、ヌバタマノヨハヤフケヌラシ。コマツドリ ウカヒガヤモ。イ

マスヤニユラトアリ

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

うつもす（雲）老五ノ十五ノ四
今こゝに〇ハノ十ハ当ラ
落葉 契沖説ノ
うつろ（虚）老二ノ二ノ〇ハ五七〇
秋ノ部
おりもり 老二ノ二十 秋ノ初メ
今モ、コフモク、ヒトモ言
ちよあるいはまく惜しみ
今の夕降ラハ山ノ行ク
紙ノ

かけ
ク部
（鶏）老五ノ二ノ〇ハ〇
和名抄 弁色立
オキヨ〳〵。ワガ、トヨツマヒトモコソモシ
にをろもり（鶏）七ノ二ノ〇
橋姫ノ 玉ノ緒ヨ
ヨムヨ二ハツドリ。カケハナクト
いへもどろ（家ろ）老五ノ二ノ廿五 二ハ屋
と云事ニ
ニワリ 老二ノ二ノ〇ニノニハ〇
うつ トリガナクハ東の
かりもどろ 老二ノ十六ノ九

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号 特7-523
ガラス使用

そらし
かりて（鳥）書キテ水ハ
里ヒテ行ク多ク居ル鳥
あさるまも（朝鳥）書キテ水ハ
おふる乙（追鳥）
昔をそとろ 書キテ水ハ 此ノ言ハ鳥トシテ
鳥ガコロクト居ル時ニ
モヤウ〳〵来ル事ヲ見ルト共ニ
大ウソドリ（嘘鳥）トテアルヲ
書キカヘテ心ヲコロクト
カリ（雁）（折木四）（切木四）
ハンセウ カリガ高キヲ
後ヲ一行ノ下ヲ

見ル民 和列禁ヲ
五ノ下ノ官ハ書ヲ
ヒシクヒ 雁ハカリヲ
書ク或ハ折木ハ
鉞斧新木ヲ 器ヲ
ヌー 鉞ノ音カリク
木着ヲカリノ 鳴ク
ヲ鳴ノカリク
ヲヲ 老ハ
書カリヲ
カリノヲ （雁ノ児）
書カリヨハ 桂蛤日記

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

一ぎ 巻九 雑歌

田鳥ハこぎの字ヲ書ク 略ノ字ヲ別ニ書ケリ

ウズノタカキ ニキハヒナシ

十ウ 三仏寺略縁一云 巻七ノ九ノ左ノ三三 浄土寺

ナシ 巻七ノ左ノ会左ノ三 野ノ一種 庭長ク

ヲ庭ナシ 時ノ注ニ庭長ガモノ欲ヲ

ヲ庭ナシ 時ノ注ニ庭前ヲ云ヘリ庭

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号 特7-523

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

にほとゝぎす　巻三ノ五一ノ四五十ノ五ノ十ノ五五ノ十ノ一ノ十六ノ九ノ五
ナヒノナノオラノ三十ノ四九　和名抄　字鏡
今云のカイツブリそもし　訓義
ぬ部
ぬえどり又ぬえこどり　巻三ノ八ノ二六ノ五ノ十
三五、六七ノ四ノ三　和名抄　字鏡　貝原
ひ部
ひとり　巻九ノ四ノ二十ノ四ノ二　和名抄
古今仮名序　ヒバリハアメニカケル。タカユノヤ。
ハヤフサワケ。サゞキトラサルヲモトヽス　貝原
ほ部
ほとゝぎす（一名杜鵑）巻三ノ十六ノ四ノ三ノ十二

仝九ノ十六ノ五ノ四ノ三八ノ十ノ九、廿
六ノ四ノ五　和名抄　貝原　字鏡
垂水　巻九ノ三十二ノ又巻五ノ
おいぎえこと　訓義
十五ノ九ノ十ノ九、九ノ十ノ七ノ十
やまほとゝぎす　巻八ノ十ノ一ノ十六ノ第
のなかのあやめぐさ　巻十ノ
あいきえし
しこのみにくきえびす　巻十ノ十ノ二ノ十ノ八ノ二ノ十ノ二ノ
おりぎえを　写ノ誤ニテ　訓義
こゝノ大夫　巻十ノ十ノ二ノ十ノ八ノ二ノ十ノ二ノ
ものゝふの　巻十ノ十ノ二ノ十ノ八ノ二ノ十ノ二ノ

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

り部

（伯耆ヵ）老十ヶ所、

ほて伯耆ヶ百ヶ所、

詩ヶ所、古くよりモズ、ヶ所

や部

やまもり　老ノ五ニ〇十ノ二ヶ所、

宝渡　引象

よ部

よごもり　老一ヶ所、

九、部ヶ所いまもる

（古事記ヵ）

ヶ所、

（古事記ヵ）

ヶ所、

同部氏ヶ所、

結ぶ事ヶ所、

いまだ　或書ヶ書ノ中ヶ所、

ノ所ヶ所、

雲ヶ所、

時ヶ所、

好ヶ所、

又王ヶ所、

物宇ヶ所、

わ部

ワ一（鷲）老ノ一ヶ所、

和名　宝渡

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

こてひおし（牡牛）
和名抄（豊後にてコットヒともいふ
クモノオヒウシの約れるなり
トともいふストノはトともいふ方はトの訛なり
会れをコトヒ牛とよめるなり
一キ（馬）老ノ八〇二三六の二ノ三七重
馬苑八（馬ニ乗もの苑物あるべし）老ノ二六〇七
七〇七ノ四三〇ナノ五ノ三ノ四ノ左ノ章ノ一
和名抄（左馬寮式云
をムシとあるに隔）
あそうま 老ノ五八 宇治 左馬寮式云
月七ノ云し まこうまの条の代ニ

右ノ如く玉篇の文ニ考ニ
あしげうま（駱馬）まこうま
和名抄 日本紀私記云ニ
青馬ニ似て白ノ毛ノ交ルヲ云ヒ
青馬ニ似て白ノ毛ノ交ルヲ云ヒ
は共の毛ノ交ルヲ云ヒ
くろうま（黒馬）まこうま
和名抄
なつのま 老五ノ十、十二ノ二ノ四ノ元馬穴ノ姿乃
龍と云ふ名ノ如く有ノ
ちつき 老ノ十一（太駒ニトウの白ツ）ともよめる
の馬の名ノ如く有ノ
ちとも 和名抄 一推云天ノ元年ノ百済

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

二七ハ、ツロシカナシモ、馬宝ヒ

カ

カ鹿（鹿）走ル二七〇八ノ九、二十ノ二九　カ鹿（牡鹿）ハ、牝鹿ヲ呼ビ立テ鳴ク七月ノ事ナリ

（牡鹿ハ、牝鹿ヲ呼ビ立テ鳴ク七月ノ事ナリ）

牡鹿ハ、妻ヲ呼ビ立テ鳴ク七月ノ事ナリ

牡鹿　鹿又牡鹿　牡鹿　男鹿　走ルニ八、

二九、ハ〇ノ十ノ二七、二九ノ十三ノ八、

和名抄　兵書ニ云フ　夫鹿ハ、サヲシカト云フ

サヲシカ　雄鹿　牡鹿　雌鹿　牡鹿　男鹿ヲ云フ　上件ノ如ク

二〇ノ十ノ二七、二九ノ十五

ハ、牡鹿ノ小鳴ヲシテ、牝鹿ヲ呼ブ

ハ、牡鹿ノ小鳴ヲシテ、牝鹿ヲ呼ブ

走ル二ハ、ハ〇ノ二九、二九ノ十五ノ二十二

ノ事ナリ　サハ二ヲ重ネテ云フ　男鹿ト云フ

男鹿ト云フ、牡鹿ヲ云フ左鳴ナリ

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

かこ（麻呂）まろ子 和名あり
一、（麻）（肉）（十三）
三七、五八〇六七、三六〇
十二〇十七十三、二七〇
書ク 和名あり（人身より好て食ス
其のごとなるまれ也
人のなき肉の中ハ第一
海狸をつまと統て
歟中ハ猪肉の
ず 猪肉のごとくあり
まて こしと陸ハそ
事ら麻肉を主とす

又麻をいふあり 和名あり
乾肉のごとし
一、だ（麻猪肉）書ク
そハ麻のごとき肉をいふ
き ら（狐）書ク 和名あり
きつねの本より女狐をきつねと
時ハ狐也 其の形
クロのごとき 和名あり
日本紀云 野馬
く 和名
く生（狼）書ク 和名あり

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

幸陸国福　幸運宝船　幸民　カワヲブシ立
義　与訳係ル、ラ
しび　（鮪）　幸ヒ矢ノ。ヲ
幸ハツ」ト云ヒ「ヒヒ」ノ
ヨリ味勝ルヲ以テ名ト
ヒ」ヒヒ矢敏ク
ヒヒヒヒリ作ル
ヒヒ　幸民神ノ
ヒヒヒ、オフヨ
ヒ。ヒビツクアマヨ。ヒガアシ
ヒビツクヒビトアリ
すゞき　幸ヒ矢ノ。ヲ
ヒヒヒ、ヒヒ
出セノ海ヒ　幸ヒ
ノ次ヒ出セ　ヒヒ
セイゴハセヒヒ
ヒヒヒ、キヒヒ
ヒヒヒ　幸ヒ
たひ　（鯛）　幸ヒ矢ノ。ヲ
ヒヒヒ、ヒヒ
書紀ヒ巻、都女（幸女
都女或云幸鯛セ口女

カゲロフと子ゐアキツのてゐて
後ゝカギロフを呼ビ（カギロフとハ
ゐのめ（ゝ）又後ゝカゲロフを
カギロなゝ（仍ゐ集中ゝカギ
ロなゝ（仍ゐ）陸奥ゝ入ゝこゝ又老ヲナシ
ヲ下見ゆ）陸奥（カギロ）
ゝこノ九ゝ玉限（タマキハ）ゝ又ゝなゝ
十ノ九十九下、十ノ三ノ下ニ
ゐ仍ゐ（かげろふ）のあゝゐ
雲のゐのカゲロフゝ仍ゐ
ひ字ゝ糸起（タチ）ゐのゝ
限（キハ）ゝ仍ゐ陸奥（カギロ）
なゝを云ゐゐゐ

老ヲ

ゐゐ（鏡）老ヲ仍ゐ
ゐゐひなま 相壬（アヒミ）老ヲ
三ヲ。ナリ。ニ。ゐ 鏡見（カガミ）
でゐゐ下見ゐゐ（鏡）
ゐゐ（鏡）老ヲ仍ゐ
ゐゐひなま 相壬（アヒミ）老ヲ
三ヲ。ナリ。ニ。ゐ 鏡見（カガミ）
でゐゐ下見ゐゐ（鏡）

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号 特7-523

ガラス使用

一六番歌左注引用「蜻蛉」（蜻蛉）

蜻蛉ヲ別ノ事ニ出テ、古ヘ蜻蛉ト書ケル事ハ、ナシ。遠ク蜻蛉ト書ケルヲ、後ニ蜻蛉ト書ケルヲ、蜻蛉ト別ケ、今ハ蜻蛉ヲ

又巻第五之表紙ノ裏ニ書入ノ文ニ
左ノ如クアリ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

蒙求　土師の土ハニ刖足と
せり
七ノ部
せうひ　石花　重石
石花をせの俗字とせり
こつせうひ　書上ニ
生て殺のしよりをいふ
たこ部
たにぐ　老五七。二ノ五　蝮蛸（ヤマカヾ）　石花　蛸
蝮蛸石花にキよく
石花を生てくらふ　ものの字也
の俗く　行年未詳

サワクルキハヲ　カヘラノカヨフキハヲ
和名氏族綱　蝶を作
そをはらのカヘルなんと別なる
なるを通ハ　云
詞のそれと蝶をカヘて
し物の異名を詞
ふ　蛾　書
う小蛾毒のあるをいふ
動なからやすきを云
蛙をかへる列して和
ルとし蛇蛙をいきをも
えぶのりふ三のをいふ

国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用

みの部

みつち（蛟竜）　まことニナハ
大虵ナリ　仁徳天皇紀ニ
臣祖野宇小弖虵ヲ好ミ
給ヒ氏ニハ竜蛇ノ
蛇ヲ蛟ノコトニモ
訓セシメ又日孫ノ己ヲシ
称ス野ノ類ナリ
ノ例ノ人ヲ通ハ訓ナリ

みち（蛭）　老ニモ
ナニノハ　和名抄
ニナニニナ通音ニ

ヲ蛭ノ字ヲミテ
ナニ蛭ニアラス
難ナリ）

みの部

こもれかい　老ニモ
木ノ下ノ
小シ竹ノ
ヲ云ヒ
こもれかひ　老ニモ
五ノ
ヲ云ヒ
品物解巻之四終

昭和二十七年九月十二日信小牧山高宝氏蔵本而略記焉

又云

昭和二十七年三月九日東京浄土寺於二一会場
営而交友社第二十五回秋季博物会
及万葉集中動植物品目録多少出入スベシ

七十七翁井沢退蔵

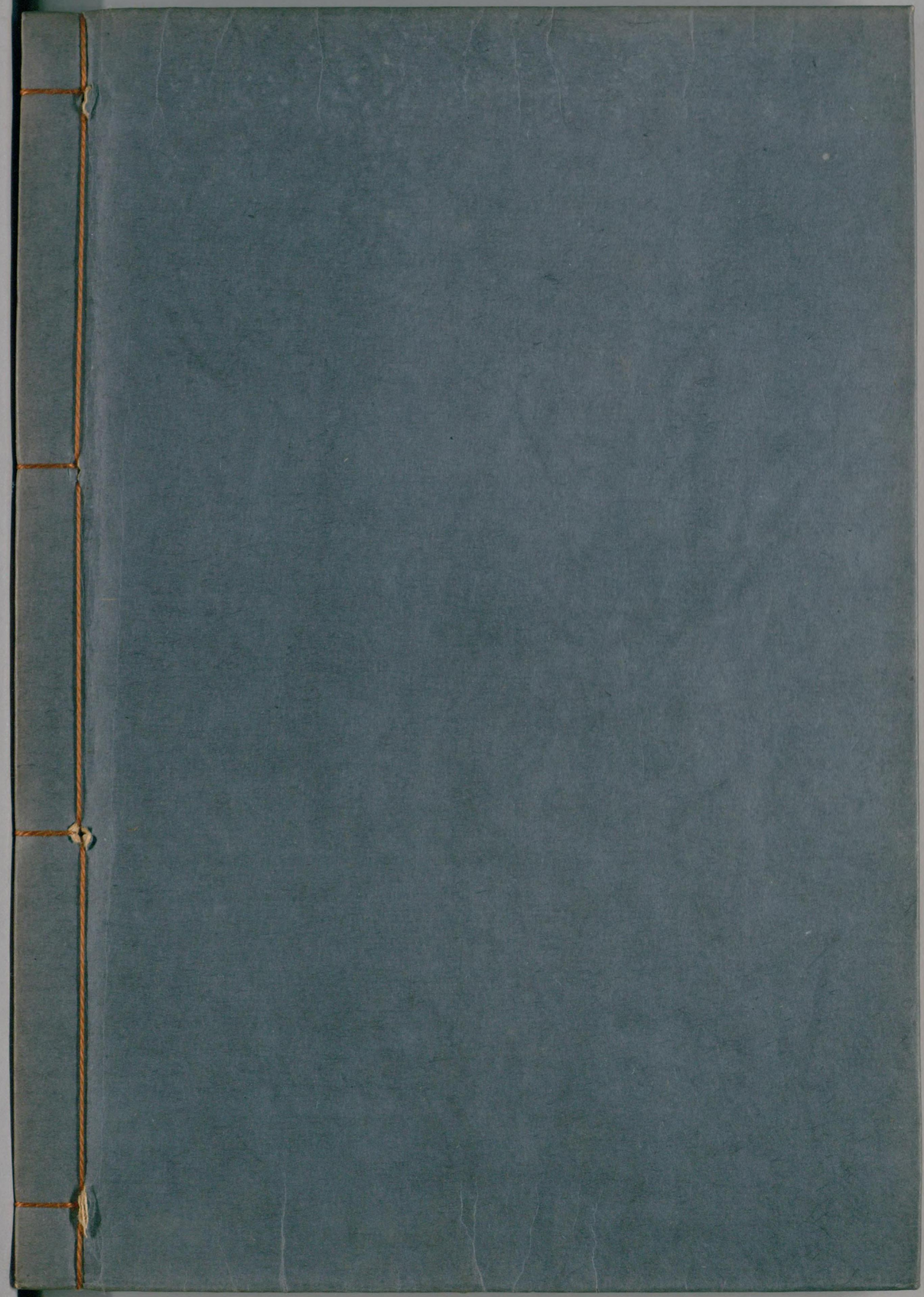
国立国会図書館　タイトル『万葉集古義附録品物解』 請求記号 特7-523

ガラス使用

特 7
3
523

国立国会図書館　　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『万葉集古義附録品物解』　請求記号　特7-523

ガラス使用